

		自己評価			
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	総合評価	学校関係者の意見
<b>1 鳴門教育大学との連携</b> [企画推進課]	I) 大学院生・学部生による授業補助、補習の指導等を通して生徒の学力向上を図る。  II) 大学院生・学部生との関わりを通して、教職を目指す生徒の意識の向上を図る。  III) 大学院生・学部生による部活動の指導や施設・設備の相互利用を推進し、生徒の競技力向上を図る。	<b>評価指標</b> I) 鳴門教育大学院生によるTT授業や、放課後の「Miraiサポート」(個別補習)を週1回実施し、学習支援を充実させる。 II) 鳴門教育大学院生のフィールドワークを年間2回(1回15日以上)受け入れ、進学や教職を目指す生徒の意識づけを図る。 III) 鳴門教育大学の施設・設備の利用や院生・学部生との相互交流等により、各種部活動の競技力向上を目指すとともに、生徒の部活動への意識高揚を図る。	<b>評価指標の達成度</b> I) 鳴教大院生による学習支援教室を週2回放課後に実施した。 1・2年生希望者:5月-英語,数学 10月・11月-英語,数学,国語 II) 鳴門教育大学大学院学校教育研究科専門職学位課程高度学校教育実践専攻の実習生を受け入れた(31名)。鳴門教育大学院生に、受験を控えた3年生対象の集団面接練習に携わってもらった。 III) ラグビー部:鳴門教育大学ラグビー場・サッカー場で、月に2~3回合同練習を行った。 硬式テニス部:鳴門教育大学テニスコートで、練習や練習試合を月3回程度行った。	(評定) B  (所見)今年度実施した鳴教大院生presents「Miraiサポート」、集団面接練習の補助、鳴門教育大学(眞野准教授)の講義(英語)、鳴門教育大学の施設・設備の有効利用等は、継続していきたい。  これらに加え、他教科の講座や実技を伴う授業(音楽)やボランティア学特講等の授業、教員志望の鳴高生の鳴教大授業受講、鳴高リハーサルテストを鳴教大で受験するなど、新しい取り組みを考えている。鳴門教育大学の施設・設備の有効利用や合同練習も、より多くの部活動で実施したい。	<b>学校関係者の意見</b> 大学院生から、学習指導を受けたり、面接の練習に携わってもらうのは大変良い取組である。今後とも是非継続していただきたい。鳴門教育大学との連携を機に、生徒たちに教職員を目指して取り組んでほしい。次年度、さらに連携を深める中で、教職を目指す生徒の支援を進め、鳴門教育大学に進学できる体制を望む。  <b>次年度への課題と今後の改善方策</b> 鳴門教育大学との連携も3年目となり、より深い連携が実現した。今年度も大学関係者の生徒への講義や鳴門教育大学の施設・設備の利用など、多岐にわたったが、鳴門教育大学院生の受け入れが中心であり、鳴門高校側からの要望事項の実現は少なかった。 高大連携推進委員会が開催され、充実した意見交換がなされた。次年度は、さらなる連携強化に向けての具体的施策を協議していきたい。
		<b>活動計画</b> I) 鳴門教育大学院生によるTT授業や、放課後週1回の個別補習「Miraiサポート」を3教科(英語・数学・国語)で実施し、学習支援をする。 II) 鳴門教育大学院生の担当ホームルームで進路に関する体験談の時間を設ける。 III) テニス部、ラグビー部、ハンドボール部等において、鳴門教育大学の施設を利用し、合同練習を行う。	<b>活動計画の実施状況</b> I) 鳴門教育大学院生による学習支援教室(名称:鳴教大院生presents「Miraiサポート」)を英語・数学の2教科で週2回放課後に実施した。(毎週各教科1回) II) 鳴門教育大学院生から、HR活動や授業、放課後などの時間に関する体験談を話してもらい、質問に答えていただいた。 III) ラグビー部、硬式テニス部において、鳴門教育大学の施設を利用させていただき、合同練習等を行った。		
<b>2 進路指導の充実</b> [進学課] [就職課]	I) 望ましい職業観・勤労観の育成を図るとともに、明確な進路目標を設定させる。  II) 進路指導に必要な情報を迅速に収集し、計画的・組織的な進路指導を行う。	<b>評価指標</b> I) ・国公立大学合格者30名以上。 ・本校に進学して良かったと思っている生徒の割合80%以上。 ・本校に進学させて良かったと思っている保護者の割合90%以上。 ・三者面談や学年別PTA等は十分に行われていると思う保護者の割合80%以上。  II) 進路ガイダンスや進路講演会などの行事が進路意識の高揚につながっていると思う保護者の割合70%以上。	<b>評価指標の達成度</b> I) ・国公立大学(18名)私立大学(166名)私立短期大学(18名)専門学校(63名)の合格者があった。同志社大学、立命館大学等の難関私立大学、短期大学への進学者の増加、看護医療系方面への進学者も増加した。 ・就職者は、24名(内3名は公務員)(3/22現在) ・本校に進学させて良かったと思う保護者の割合は86.0%。 ・三者面談や学年別PTA等は十分に行われていると思う保護者の割合は78.0%。  II) 進路ガイダンスや進路講演会などの行事が進路意識の高揚につながっていると思う保護者の割合は68.5%。	(評定) B  (所見)保護者との連携を密にし、個人面談・進路志望調査を通して、生徒の進路志望を把握した。 コロナ禍においても補習や英語検定、漢字検定、数学検定、全員受験の模試には十分な取組はできたが、進学への意欲喚起や希望者受験の模試受験者を増やすため、将来の具体的なビジョンを持たせる指導強化が必要である。	<b>学校関係者の意見</b> 鳴門高校に進学させて良かったと思う保護者の割合が86%を超え、三者面談や学年別PTA等は十分に行われていると思う保護者の割合も78%となりコロナ禍の中で例年できなかったことが改善されつつある。 大学進学について、大学側の情報を得る機会をさらに拡大すべきである。生徒たちの意識改革も変わってくるのではないかと。進学への意欲喚起や模試受験者を増やし、将来の具体的なビジョンを持たせることも非常に大切である。 コロナ禍で、オープンキャンパスへの参加が制限されていることは非常に残念である。また、インターシップの募集がなかったことも大変残念である。コロナ禍の社会情勢を的確に受け止め、生徒一人一人に寄り添った指導が重要である。 新課程および共通テストへの対策で、後手後手でない一歩でも先に進む方策を考えて欲しい。

		<p><b>活動計画</b></p> <p>I) ・夏季休業中に三者面談を実施する。 ・年次別PTAを実施する。 ・個人面談を充実させる。 ・補習を充実させる。 ・1・2年次生に対して、校外模試を年5回以上実施する。 ・大学入学共通テストに向けた実践トレーニングを行う。 ・資格取得を奨励する。 ・生徒が主体的に進学先を研究する姿勢を身につけさせる。</p> <p>II) ・進路ガイダンスを実施する。地元大学、専門学校との連携を強化する。 ・公務員希望生徒対象の説明会を本校で開催実施する。(自衛隊・県警・地方公共団体) ・インターンシップの参加を促す。</p>	<p><b>活動計画の実施状況</b></p> <p>I) ・各学年で三者面談並びに適宜個人面談を実施した。 ・面接週間を利用して面接を実施した。 ・1年を通して放課後補習(45分)を実施した。また、夏期・冬期・春期及び2次対策補習等を実施した。(補習出席率は1年次82.1%、2年次81.0%、3年次74.2%) ・1・2年次生の校外模試を年間6回実施。部活動で当日受験できない者に対して、別日程で受験できるように配慮した。 ・冬季休業中に「鳴高プレテスト」を3回実施した。 ・英語検定、漢字検定、数学検定の受検を奨励。英検123名、漢検134名、数検10名が受検した。1月現在で英検54名、漢検44名、数検2名が合格。(最終合否は3月中旬) ・進路研究のための各種体験授業等は、新型コロナウイルス感染症の影響で実施できなかった。</p> <p>II) ・2年生は、学部別19講座開催。 ・3年生は、学部別21講座開催。 ・インターンシップは新型コロナウイルスの影響で実施できなかった。</p>		<p><b>次年度への課題と今後の改善方策</b></p> <p>国立大学や難関私立大学を目指し様々な取組を展開していく必要がある。特に大学入試共通テスト、さらに新学習指導要領に向けた進路指導体制の構築が急務である。</p> <p>総合型・学校推薦型、各推薦入試への対応を進めるとともに、最後まで粘れる生徒を作っていく必要がある。そのためにも、さらなる生徒の意識改革が重要である。一人でも多くの補習参加者が得られるように努めていかなければならない。</p> <p>コロナ禍で面談機会や中身の充実が難しい面があった。進路相談も担任中心だけでなく、各ポジションで教員が連携し、より良い進路指導に繋げる必要がある。</p>
<p><b>3 学習指導の改善</b> [教務課] [情報課]</p>	<p>I) 教職員の指導スキルの向上に努め、「主体的・対話的で深い学び」の推進を図る。 II) 生徒の学習意欲を喚起する指導方法・指導体制の工夫・改善を図る。 III) ICTの活用等により、多様な生徒に個別最適化された学びの実現を目指す。</p>	<p><b>評価指標</b></p> <p>I) 先生の説明がわかりやすいと思う生徒の割合90%以上。 II) ・単位制による多くの科目選択や少人数授業等が充実していると思う保護者の割合70%以上。 ・家庭で予習・復習やテスト勉強を計画的にしていると思う保護者の割合70%以上。 III) 電子黒板や生徒用学習端末等のICTを活用した授業が展開され、学習の理解に役立っていると思う生徒の割合80%以上。</p>	<p><b>評価指標の達成度</b></p> <p>I) 先生の説明がわかりやすいと思う生徒の「そう思う」「ややそう思う」の割合75.9%。 II) ・単位制による多くの科目選択や少人数授業等が充実していると思う保護者の「そう思う」「ややそう思う」の割合82.8%。 ・家庭で予習・復習やテスト勉強を計画的にしていると思う保護者の「そう思う」「ややそう思う」の割合55.7%。 III) 電子黒板や生徒用学習端末等のICTを活用した授業が展開され、学習の理解に役立っていると思う生徒の割合74.9%。</p>	<p><b>総合評価</b></p> <p>(評定) B (所見) 研究授業及び公開授業等を実施し、授業実践を見学し協議した。 電子黒板を活用した授業の実施が多く見られ、教員による相互参観授業も実施できた。 年間を通した補習、個別指導、週末課題等を継続実施し、基礎学力の定着に向けた取組が図られた。</p>	<p><b>学校関係者の意見</b></p> <p>「先生の説明が分かりやすい」と思う生徒がおおよそ75%となっており、昨年より改善されたが、まだ低い状況である。コロナ禍の影響による原因かもしれないが、その根本を明確にし、分かりやすい授業を目指してほしい。</p> <p>家庭での学習時間が各学年とも0時間の生徒が多い。生徒には、学ぶ習慣を是非身につけてもらいたい。そのためには、生徒への意識付けが必要である。しっかり時間をかけた学習活動の目標やビジョンの指導が必要である。また全体的な教科指導も必要だが、個別指導も今後大切になってくると思われる。</p>
<p><b>4 生徒指導の充実</b> [生徒指導課] [教育相談課] [人権教育課]</p>	<p>I) 生徒一人ひとりとの関わりを大切に丁寧な指導を通して、教師と生徒の信頼ある関係を構築する。</p>	<p><b>評価指標</b></p> <p>I) ・校則や決まりを守っていると思う生徒の割合90%以上。 ・校則違反等の特別指導対象生徒5名以下。 ・自転車事故10件以下。</p>	<p><b>評価指標の達成度</b></p> <p>I) ・校則や決まりを守っていると思う生徒の割合は85%。 ・特別指導対象生徒は3名。 ・自転車事故は13件、交通マナーに関する苦情は17件。</p>	<p><b>総合評価</b></p> <p>(評定) B</p>	<p><b>学校関係者の意見</b></p> <p>鳴門高校生は校則や決まりを守っていると思う保護者の割合が65.5%しかない。なぜ、決まりやルールを守ることが大切であ</p>

<p>II) 家庭, 中学校, 関係諸機関との連携を密にすることで, 問題行動を未然に防止する。</p> <p>III) 教育相談活動を充実させることで, いじめや不登校などの未然防止・早期発見に努める。</p>	<p>II) ・鳴門高校生は, 校則やきまりを守っていると思う保護者の割合75%以上。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校から配布される書類等が, 保護者の手に届く割合80%以上。</li> </ul> <p>III) ・教員対象に生徒の学校生活に関するチェックリストを年2回実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールカウンセラーの活用促進。</li> <li>・悩み事が相談できる人がいる生徒の割合80%以上。</li> </ul>	<p>II) ・鳴門高校生は, 校則やきまりを守っていると思う保護者の割合は65.5%。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校から配布される書類等が保護者の手に届く割合は74.3%。</li> <li>・教員対象に支援の必要な生徒の学校生活に関するチェックリストを年1回実施し, カウンセラーへの相談の呼びかけや, 生徒の支援に役立てた。</li> <li>・悩み事が相談できる人がいる生徒の割合は, 全学年とも85%以上であった。(1年87.6%, 2年86.1%, 3年87.6%)</li> </ul>	<p>(所見)</p> <p>多くの生徒は校則を遵守し学校生活を送っているが, 一部そうではない生徒がいる。</p> <p>服装指導については, マナーズウィークを活用し, 月ごとのテーマを設定し身だしなみ指導を中心に全教職員で粘り強く取り組み, 一定の成果を挙げている。</p> <p>SNSについても講演会を実施し, スマートフォンの使用方法についての指導を強化する必要がある。</p> <p>教育相談については, 相談や研修等でスクールカウンセラーの活用も進み, 生徒の支援体制も充実してきた。</p>	<p>るかをきちんと理解してもらい, 地域社会で「鳴門高校生はルールをきちんと守り, マナーも良い」と言われるように指導を強化してほしい。</p> <p>校内に留まらず, 一般社会でもマナーを重要視してほしい。社会を見極める習慣が是非とも必要であり, 家庭との連携もさらに進めていくべきではなかろうか。</p> <p>遅刻総数が前年度より減少しており, 効果には満足している。今後とも, ゆとりある登校を心がけてほしい。</p> <p>SNSの普及について, 講演会を実施するなど, その取組を強化しているようだが, 確実に危険性は増している。情報モラル(セキュリティ)を高め, 事故に巻き込まれないようにしてほしい。</p>
	<p><b>活動計画</b></p> <p>I) ・生徒指導に関する共通理解を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運転免許取得事前講習会5回・自転車マナー啓発運動等を実施する。</li> <li>・合格者説明会や入学式において, 保護者に生活指導についての理解と協力を依頼する。</li> </ul> <p>II) ・毎月0のつく日に駐輪指導を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集会や立哨指導で交通安全の啓発, 指導を行う。</li> <li>・交通安全やSNS, 公共マナー向上, 命の大切さ等に関する講演会を行う。</li> </ul> <p>III) ・スクールカウンセラーや関係機関と連携し, 不登校傾向のある生徒や特別な支援を必要とする生徒に対し, 適切な支援を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員対象にチェックリストを年2回実施し, 支援の必要な生徒の把握に努める。</li> <li>・教職員対象の研修を実施する。</li> </ul>	<p><b>活動計画の実施状況</b></p> <p>I) ・年度当初の職員会議において本年度の重点項目, 指導の基準を説明し, 指導についての共通理解を図った。また, 3学期の職員会議で, 生徒指導上についての中間報告を行い, 今後の対策について検討した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・普通自動車運転免許取得事前講習会を年4回実施し, 生徒・保護者に周知した。</li> <li>・合格者説明会・入学式に本校の指導方針について説明し, 保護者の理解を深めた。また, 家庭への啓発文書を年間7回送付した。</li> </ul> <p>II) ・学期に2回, 学校周辺道路の危険箇所, 全副担任・年次付の先生方で立哨指導を行った。また, 月に2回, 駐輪指導を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交通委員・部活動生を中心に挨拶・マナー啓発運動を実施。</li> <li>・5月にSNS講演会を実施。(全年次対象, 講師:兵庫県情報セキュリティサポーター NIT 情報技術推進ネットワーク代表取締役 篠原嘉一氏)</li> <li>・12月にスマホ・携帯電話安全教室を実施。(全年次対象, 講師:NTTドコモ安全教室インストラクター 藤田里香氏)</li> <li>・携帯・スマホの預かり指導を実施した。</li> </ul> <p>III) ・生徒の実態調査(チェックリスト)を行い, それをもとに不登校傾向のある生徒や支援の必要な生徒に対して, カウンセリングを勧め支援へつなげた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2学期から別室登校の利用者が2名いた。うち1名は教室に戻り落ち着いて学校生活を送ることができている。残り1名は教室へ戻りつつある。3学期から別室登校を始めたばかりの生徒1名は落ち着いて別室で過ごしている。(1月段階)</li> <li>・本年度は, 教職員研修に加え, 各年次会で支援の必要な生徒について, チェックリストをもとに状況や対応策等について共通理解を図った。</li> <li>・養護教諭が毎月実施する多欠席調査をもとに早期対応に努めた。</li> <li>・保護者との面談を通して, 生徒への願いを確認し, 専門機関の情報を提供するなど初期対応に努めた。</li> </ul>	<p>人権問題について関心を持たせる指導(講演会, 人権HR, 人権作文等)を, 電子黒板を活用するなど工夫を凝らして実施し, 成果を挙げることができた。</p> <p>また, 撫養街道への地域学習を行い, 鳴門の歴史や地域について学び, 地元の誇りや文化について学ぶことができた。</p>	<p><b>次年度への課題と今後の改善方策</b></p> <p>「身だしなみ指導」については, 生徒・保護者・学校が情報を共有し, 連絡を密にすることが重要であり, マナー等の面を含めさらに連携を深めていきたい。</p> <p>全ての場面を利用し, 交通安全の再認識を図る必要がある。また, 朝の登校指導も引き続き行っていきたい。</p> <p>携帯電話によるトラブルが後をたたない状況にあることは周知している。トラブル防止や利用の仕方等について, 引き続き講演等を活用し指導の徹底を図りたい。</p>
<p>5 特別活動の充実 [特別活動課]</p>	<p><b>評価指標</b></p> <p>I) ・部活動および学校行事の活性化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動部・文化部に対して壮行会を行う。</li> <li>・全ての部活動の取組を本校生徒・教職員及び地域の方々に学校ホームページで広報する。</li> </ul> <p>II) ボランティア活動の推進に努め, 豊かな心と地域に貢献できる生徒の育成を図る。</p>	<p><b>評価指標の達成度</b></p> <p>I) ・学校評価アンケート(保護者用)では, 部活動と生徒会活動が活発に行われているという割合が85.9%と昨年度(78.6%)を上回っていた。今年度の県総体が実施できたことも理由の一つである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・壮行会については, 体育館での実施はできなかったが, Zoomで実施(100%)することができた。</li> </ul>	<p><b>総合評価</b></p> <p>(評定)</p> <p>A</p>	<p><b>学校関係者の意見</b></p> <p>新型コロナウイルス感染拡大を受けて, 様々な活動が中止や延期に追い込まれ, 学校も大変だったと思われる。次年度は多少状況の変化も生じることが予想されるが, この2年間のコロナ対策を踏</p>

		II) セミナーに参加したり、ボランティア学特講を中心に体験活動等を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページは、各部ごとに効果的に更新し、広報活動を行った。</li> </ul> II) 年間を通して計画的に運営を行い、ボランティア学特講は5回実施した。(昨年度は4回実施)	(所見) 今年度も、新型コロナウイルス感染症により多くの教育活動が制限され、特別活動全般において影響がで	まえ、従来の形で学校行事ができるよう取り組んでいきたい。
		<b>活動計画</b> I) 競技力や活動内容の向上を図る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>運動部、文化部に対して壮行会を行う。</li> <li>部活動の取組を本校生徒・教職員及び地域の方々に広報する。</li> </ul>	<b>活動計画の実施状況</b> I) 今年度は県高校総体が開催され、四国大会や全国大会に出場する部活動が増えた。県総体では陸上競技部(男女)となぎなた部が優勝、硬式野球部は秋季四国大会で準優勝し3月の選抜高校野球大会出場を決めた。また、陸上競技部2年生部員(女子)が全国大会で3位入賞した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>壮行会については、体育館での実施はできなかったが、Zoomで実施(100%)することができた。</li> <li>ホームページは、各部ごとに効果的に更新し、広報活動を行った。</li> </ul>	た。しかし、昨年度の経験を活かし、部活動や行事の運営を効果的に進めることができた。 部活動においては、昨年度よりも入部率が向上し、四国大会や全国大会の出場数も大きく増えた。行事運営においては、文化祭の中止や体育祭の延期などもあったが、限られた環境で効果的に実施できた。次年度の計画や運営も工夫して取り組みたい。	<b>次年度への課題と今後の改善方策</b> 部活動では、文化部・運動部ともに入部率が高い。継続して活発な活動を進めていきたい。 ボランティア活動についても、積極的に取り組んでいきたい。
		II) セミナーや体験活動の案内をし、振り返りのレポートを提出するよう生徒に働きかける。	II) 年間を通して計画的に運営を行い、効果的にフィードバックすることができた。		
<b>6 環境教育・保健衛生対策の推進</b>  [環境教育課] [保健厚生課]	I) 校舎内外の環境美化活動を推進し、道徳心や公共心の育成を図る。  II) 学校における保健衛生環境を整えるとともに、生徒および教職員の健康管理を徹底する。	<b>評価指標</b> I) 自分のロッカーや机の周りの整理整頓ができていると思う生徒が85%以上。 <ul style="list-style-type: none"> <li>ゴミが落ちていないと進んで拾うという生徒が85%以上。</li> <li>校外の清掃活動を通して、地域貢献をした生徒100%。</li> </ul> II) 新型コロナウイルスの感染防止対策として毎朝の健康観察票の提出を100%とする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>クラスター防止の観点から、教室や集会等での「3密」の回避をはかる。</li> <li>手洗いと手指消毒、教室の換気など衛生指導を徹底する。</li> </ul>	<b>評価指標の達成度</b> I) 昨年に比べて、生徒自身が自分のロッカーや机の周りの整理整頓ができ、教室環境が格段に良くなったと評価する教員が多いので、美化意識がさらに高まったと考えられる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>今年度は清掃活動の行事を実施できたので、校外の清掃活動を通して地域貢献をした生徒100%を達成できた。</li> </ul> II) 毎朝のSHRでの健康観察票の配布・記入・回収が定着し、回収率も全体でほぼ100%を達成することができた。 <ul style="list-style-type: none"> <li>今年度は、年次集会を除き、各式典や講演をオンラインで行った。</li> <li>保護者アンケートにおいて、感染症対策が十分にできている割合が91%に達した。</li> </ul>	<b>総合評価</b>  (評定)  B          (所見) 今年度は清掃活動も計画通りに実施でき、校内の活動と共に環境美化推進に貢献できた。 学校生活においては、どうしても過密状態は避けられないが、検温・マスクの着用等習慣化したものも多く、生徒・保護者も協力的である。またZoomを用いた集会等も、混乱なくスムーズに実施することができた。	<b>学校関係者の意見</b>  新型コロナウイルス感染拡大の影響にも関わらず、昨年度の反省と成果を踏まえ、環境美化活動に積極的に取り組んでいる。 コロナ禍における感染対策等の保健衛生業務が、一定の成果を収めており、非常によく取り組んでいる。  <b>次年度への課題と今後の改善方策</b>  今後も教室の環境整備に努め、学校行事においてもオンラインの活用等、積極的に対策を講じていきたい。
		<b>活動計画</b> I) 環境委員を中心にクラスに呼びかけ、全員で取り組むようにする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>1年次生の校外活動の1つとして、清掃ボランティア活動を実施する。</li> </ul> II) 家庭での体温測定と、朝のSHRでの健康観察票への記入・回収を習慣化する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>集会等は、オンライン会議システムを利用し、生徒が1か所で密にならないように工夫する。</li> <li>教室・校舎出入口・トイレ等に手指消毒液を設置するとともに、清掃時および放課後を利用して教室や共用施設の消毒を行う。常時教室の窓およびドアは開放し、換気を徹底する。</li> </ul>	<b>活動計画の実施状況</b> I) 環境委員を中心に呼びかけて全員で清掃活動に取り組むことができた。 <ul style="list-style-type: none"> <li>清掃ボランティア活動を通して、地域の実態について学んだ。</li> </ul> II) 家庭での毎日の検温とマスクの着用等が習慣化し、健康観察票の記入・回収もスムーズに行うことができた。 <ul style="list-style-type: none"> <li>教室、トイレ、校舎出入口に消毒液を設置し、毎日の清掃時と放課後の消毒作業を徹底した。昼食時の黙食を呼びかけ、教員が定期的に見回り指導を行った。また教室にサーキュレーターを設置し、教室の窓を対角線上に開けるなど、教室の常時換気を徹底した。</li> </ul>		
<b>7 読書活動の推進</b>  [図書課]	I) 教科における学習活動と連携した読書活動の推進を図る。  II) 読書習慣を定着させ、生涯にわたって豊かな人生を送るための資質を形成する。	<b>評価指標</b> I) 各教科・教育活動の一環として図書館を活用するよう、1年次対象にオリエンテーションを年1回以上行う。  II) HR読書会を年1回以上実施して、読書への関心を深めさせる。  <ul style="list-style-type: none"> <li>図書の貸し出し冊数の目標を、年間2000冊以上とする。</li> </ul>	<b>評価指標の達成度</b> I) 国語科で、1年次対象のオリエンテーションを4月に行った。国語・公民等の教科授業やHRを図書室で行い、関連した作品を読んだり、調べ学習をしたりする機会を作ることによって、図書館活用を促進することができた。12月末時点で、授業時の図書館利用は95回であり、昨年度同時期と比較すると、約19.4%に増加した。  II) HR読書会は、新型コロナウイルス感染症対策のため、図書課の提示した「グループ学習を縮小した実践例」を参考に9月に実施した。実践結果を報告し共有することができた。 <ul style="list-style-type: none"> <li>図書館の貸出冊数は、12月末時点で2029冊であり、昨年度同時期と比較すると、約104%に増加した。</li> </ul>	<b>総合評価</b>  (評定)  B  (所見) タブレットPCやスマートフォン等の利便性が高まり、紙媒体の本は読まれなくなっている。授業で図書館を利用したり、図書委員の活動を促進させたりすることで、読書の有効性を幅広く知らせることが必要である。	<b>学校関係者の意見</b>  一般に「活字離れ」が進んでいる。地域の図書館でもその貸出冊数は減少している。スマホに頼り「調べ学習」が減少しているようである。生徒たちは時間がかかることを嫌がり、読書の時間を取ろうとしない傾向が窺える。  <b>次年度への課題と今後の改善方策</b>  図書館で本を借りて読書をするという習慣を持つ生徒を増加させることが、次年度への課題である。今後の改善方策として、多様な
		<b>活動計画</b> I) 各教科・教育活動の一環として、図書館を活用するよう、新刊紹介や、年1回以上のビブリオバトルを実施して、生徒に働きかける。	<b>活動計画の実施状況</b> I) 職員・生徒の活動や図書アンケートに沿って図書を購入し、「図書館便り」や館内展示で紹介した。ビブリオバトルは、新型コロナウイルス感染症対策を徹底して、7月に規模や時間を短縮して実施した。新聞感想文作成のために、図書館の新		

		<p>II) ・図書委員会を指導し、毎月1回発行する「図書館便り」の内容の一層の充実を図る。各月毎のHR貸出数を明記する。</p> <p>・長期休業前などに、重点的に生徒への利用呼びかけを行う期間を一週間程度設ける。</p>	<p>聞が活用された。</p> <p>II) ・図書委員会で、ビブリオバトル・HR読書会等の図書行事の中心的存在として活動するよう指導した。「図書館便り」を毎月1回発行し、HR貸出数や新刊紹介等を記載し、図書館活用を呼びかけた。</p> <p>・長期休業前の一週間、SHRや図書館掲示板等で、利用呼びかけを重点的に行った。</p>		<p>企画を立案し、図書館の利用促進に努めることが考えられる。また、タブレットPCを利用した活動も考えていきたい。</p>
<p>8 開かれた学校づくりの推進 [情報課] [総務課] [企画推進課]</p>	<p>I) 教育活動の積極的な公開を推進し、ホームページ等を利用した情報発信の充実を図る。</p> <p>II) 地域社会、PTA、同窓会との連携を推進する。</p>	<p><b>評価指標</b></p> <p>I) 鳴門高校のホームページをよく見る保護者の割合60%以上。</p> <p>II) ・PTA総会は、新型コロナウイルス感染症対策のため書面開催での実施とし、保護者からの返信(書面決議書)を80%以上とする。</p> <p>・学校開放、地域交流の推進を図る。</p> <p>・学校運営協議会(コミュニティ・スクール)を年3回実施する。</p>	<p><b>評価指標の達成度</b></p> <p>I) 鳴門高校のホームページをよく見る保護者の割合39.5%。</p> <p>II) ・PTA総会は、新型コロナウイルス感染症対策のため書面開催での実施とし、保護者からの返信(書面決議書)を81.1%回収することができた。</p> <p>・学校開放、地域交流の推進は図ることが出来なかった。</p> <p>・学校運営協議会(コミュニティ・スクール)を年3回(6月・11月・2月)実施した。</p>	<p><b>総合評価</b></p> <p>(評定) B</p> <p>(所見) 緊急メールシステムの登録を呼びかけ、保護者のほぼ100%が登録することができ、学校行事や休校について、またオンライン授業に関する連絡事項等、様々な情報を適切に運用することができた。</p> <p>ホームページをこまめに更新し、鳴門高校の広報に努めた。</p> <p>コミュニティ・スクールでは保護者や地域の方々毎回テーマを設定し熟議を重ね、本校スクール・ミッションを達成する視点から助言をいただいた。また、委員の方々にもご参加いただき生徒対象のコミュニティ・スクール連携講座を開催することができた。</p>	<p><b>学校関係者の意見</b></p> <p>緊急メールシステムの登録をほぼ100%の方が登録することができたことは素晴らしい。今後とも、様々な方法で保護者や本人も含めた、地域社会への情報発信に精力的に取り組んでほしい。</p> <p>地域・企業・大学等が連携・協働する学校運営協議会の取組は、本校のスクール・ミッションの実現に向けた生徒の主体的な活動に大きく貢献している。</p> <p><b>次年度への課題と今後の改善方策</b></p> <p>新型コロナウイルス感染拡大を受け、PTA総会や家庭教育研修会等も中止の措置を取ったが、今後アフターコロナにおける各種行事に如何にして参加者を増やしていくかが課題である。</p> <p>学校運営協議会への理解が学校内外に広がりを見せていない。地域への広報に努めるとともに、校内での教職員の連携体制の構築が急務である。</p>
<p>9 消費者教育・主権者教育・防災教育の推進 [各担当]</p>	<p>I) 身近な消費生活やエンカル消費について学ぶ機会を充実させ、自立した消費者の育成に努める。</p> <p>II) 主権者として社会の中で自立し、他者と連携・協働しながら、社会を生き抜く力を育成する。</p> <p>III) 地域と連携した安全・防災教育の推進に努め、災害時における実践力の育成を図る。</p>	<p><b>評価指標</b></p> <p>I) ・消費者問題について理解が深まった生徒の割合80%以上。</p> <p>・エンカル消費について理解できたと思う生徒の割合80%以上。</p> <p>II) ・政治や経済に関心を持った生徒80%以上。</p> <p>・主権者として積極的に社会と関わりたいと思う生徒80%以上。</p> <p>III) ・地域の一員としての防災意識の高揚を図る。</p> <p>・生徒の防災士資格試験受験者の合格率100%。</p>	<p><b>評価指標の達成度</b></p> <p>I) ・消費者問題について理解が深まった生徒の割合85%。</p> <p>・エンカル消費について理解が深まった生徒の割合82%。</p> <p>・家庭基礎等の学習の中で消費生活やエンカル消費について学び、主体的に生活を営む姿勢を身につけることができた。</p> <p>II) ・授業で取り上げる題材を工夫することにより、政治や経済に関心を持った生徒は81%だった。</p> <p>・鳴門市の将来を見据えた提案を構想する授業を実施した。</p> <p>主権者として積極的に社会と関わりたいと思う生徒は83%だった。</p> <p>III) ・2回の防災避難訓練を通して防災意識を高揚させた。また、総合的な探究の時間で防災に関する鳴門市の出前講座を2回実施した。</p> <p>・生徒の防災士試験の合格率は100%だった。(6人合格)</p>	<p><b>総合評価</b></p> <p>(評定) A</p> <p>(所見) 消費者教育に関しては、外部機関に加え、公民科と家庭科との連携を図ることにより、多様な方面から学習を進めることができた。</p> <p>エンカル消費について学ぶことで、倫理的主体としての視点から、自身の消費生活に対する関心と実践力を高めることができた。</p> <p>主権者教育の推進に関しては、授業改善の視点から取組を進めた。授業改善が進み、主権者教育に関する授業及び教材の質が向上した。外部機関との連携を深め、効果をさらに高めることが課題である。法的主体としての観点から、成年年齢の引き下げ、相談機関や相談ダイヤルの周知ができた。</p> <p>防災教育に関しては、本校のみの</p>	<p><b>学校関係者の意見</b></p> <p>コロナ禍で、たくさんの行事がキャンセルになる中で、生徒の「防災士」試験の合格率が100%であったことは、先生方の指導ならびに生徒の頑張りを評価したい。</p> <p>「防災士」を取得した生徒が単に取得したことに終わらず、地域や避難場所での活動ができるよう指導を継続してほしい。</p> <p>SDGS が叫ばれる中で、エンカル消費についてのさらなる普及に向けての取組が必要であるとともに、情報発信にも留意していきたい。</p> <p><b>次年度への課題と今後の改善方策</b></p> <p>主権者意識の高揚は継続的でないといけない。そのためにも全分野・領域において様々な取組を推進していく必要がある。</p> <p>地震や津波に対する避難はもとより、昨今の異常気象等に対して日頃からの心構えが必要であることを講演会や訓練等で学んでいくことが重要である。</p> <p>特に、コロナ禍の中での避難活</p>

		<p>業を実施する。</p> <p>Ⅲ) ・防災避難訓練を周辺地域の園、学校と合同で実施する。 ・防災士資格取得講座を年3回実施する。</p>	<p>する授業を実践した。</p> <p>Ⅲ) ・新型コロナウイルス感染症の影響で、周辺地域の園、学校との合同の防災避難訓練は実施できなかった。 ・防災士取得講座は3回実施した。</p>	<p>防災訓練ではあったが、防災教育の推進はできた。また、防災士試験合格率が100%（6人）達成できた。</p>	<p>動の体験や技術の習得など、実践練習に励んでいきたい。</p>
--	--	---	---	--	-----------------------------------

\* 「評定」の基準    A：十分達成できた    B：概ね達成できた    C：達成できなかった